

報告事項テ

平成24年度第2回鳥取県教育審議会学校等教育分科会の概要について

平成24年度第2回鳥取県教育審議会学校等教育分科会の概要について、別紙のとおり報告します。

平成25年3月16日

鳥取県教育委員会教育長 横 濱 純 一

平成24年度第2回鳥取県教育審議会学校等教育分科会の概要について

平成25年3月16日
高等学校課

- 1 日時 平成25年3月11日（月） 午前10時～正午
- 2 場所 鳥取県立図書館 大研修室
- 3 参加者 委員：11名
事務局：山根参事監兼高等学校課長、山本小中学校課長
御船高等学校課高校教育企画室長、牧野小中学校課義務教育主査 他
- 4 議事 今後の県立高等学校の在り方について
- 5 報告 地域と連携した高等学校の魅力づくりについて
平成26年度の県立高等学校の学科改編等について
今後の幼児教育の在り方について（鳥取県幼児教育振興プログラムの改訂）

7 委員からの主な意見

(1) 今後の県立高等学校の在り方について

【平成31年度以降の県立高等学校の在り方の検討に先立って】

- ・ 前回の答申に基づく 高校教育改革の評価や成果を、計画期間の中間年で検証するなど、短い間隔で検証 する必要がある
- ・ 各高等学校の 現状に対する課題を分析 する必要がある

【平成31年度以降の県立高等学校の在り方の検討の手順・観点】

- ・ これから高校の在り方を議論していく中で、鳥取県の高校の各学科のミッションや強みを整理 して進めていく必要がある
- ・ 魅力ある地域創出のために、首長の意見や地域の意見も聞きながら学校の在り方の検討を進めていくべき
- ・ 平成31年度以降の高等学校の在り方を構想する手順として、まず、どのような学校で、どのような人材を育成するかをイメージし、それを実現するための学校の配置や規模並びに地域の中での学校の役割などについて考えていく必要がある
- ・ 平成16年度から平成24年度までの生徒減と比較して、平成31年度以降の減り方を見ると下げ止まった感があるので、生徒が減ったことに目を向けるよりも、より魅力ある学校づくりや特色ある教育づくりで、私立学校にも負けない学校を目指すべき
- ・ 私立学校に進学する生徒の動向も踏まえて、県立高等学校の在り方を考えていく必要がある

【今後の総合学科の在り方について】

- ・ 総合学科は第三の学科と位置づけられているにもかかわらず、進路状況は専門学科と同じ傾向となっている。総合学科の特色を明確に示す必要がある
- ・ 中学校の進路指導において、なかなか総合学科を勧める言葉が出てこないが、中学校の総合学科に対する認識が低いのではないかと
- ・ 総合学科設置当初の崇高な理念があるにもかかわらず、近年の志願生徒数が定員に満たないという状態について、何が原因であるのか、まず議論していく必要がある

【今後の幼児教育の在り方について（鳥取県幼児教育振興プログラムの改訂）】

- ・保・幼・小学校の連携を考えたときにキーワードとなるのは、「活動の積み上げ」と「活動のつながり」であり、保育士や幼稚園教諭の研修にそのような内容の研修があれば、小学校につながりやすくなるのではないか
- ・幼児期と学童期では、発達の差があつて当たり前であり、子どもたちはそれを乗り越えてこそ発達していく。大人が子どもたちの変化や違いを理解して、なめらかな接続のためにどのようにプログラムを考えていくかということが必要

鳥取県教育審議会学校等教育分科会 出席者一覧

区 分	氏 名	職 名	備考
鳥取県教育審議会 学校等教育分科会 委員	池 内 勝 彦	鳥取県高等学校PTA連合会長	
	石 操	日吉津村長	
	栢 木 隆 志	米子市立後藤ヶ丘中学校長	欠席
	小 枝 達 也	鳥取大学地域学部教授、附属小学校長	
	高 橋 千 枝	鳥取大学地域学部准教授	
	平 松 民 雄	米子北斗中・高等学校長	欠席
	松 本 清 治	県立倉吉西高等学校長	
	丸 山 智 子	県立倉吉養護学校長	
	森 田 清 子	北栄町立北条こども園長	
	矢 部 敏 昭	鳥取大学副学長	
	山 口 朝 子	鳥取市教育委員	
	山 本 和 代	鳥取県PTA協議会理事	
	山 本 正 人	鳥取市立若葉台小学校長	

区 分	氏 名	職 名	備考
鳥取県教育委員会 事務局	山 根 孝 正	参事監兼高等学校課長	
	山 本 正 史	小中学校課長	
	御 船 斎 紀	高等学校課高校教育主査兼高校教育企画室長	
	牧 野 厚 志	小中学校課義務教育主査兼係長（指導担当）	